

親子でいっしょに考える ネットモラル

新年度は、新たにスマホを持つ子どもが増える季節です。そこで今回は、長年情報モラル教育の実践と研究に携わってきた新見公立短期大学の梶本佳照先生に、家庭でのネットモラル指導について語っていただきました。



新見公立短期大学 幼児教育学科 教授
梶本佳照

【生活習慣の乱れ】 スマホの長時間利用を防ぐには？

子どものスマホ利用に関して、家庭での指導は十分行われていると感じますか？

不足しています。私が大学生を対象に調査を行ったところ、学生の4分の3が購入時に親から何の注意も受けていないと分かりました。残り4分の1は注意を受けていたが、「長時間使い過ぎちゃダメよ」といった、漠然とした指導にとどまっています。これだけでは足りません。

【スマホの長時間利用】を防ぐには、どんな指導を行えばいいですか？

明確なルールを定めましょう。たとえば「夜9時以降は、スマホを親に預ける」「食事の時はスマホを触らない」「家族でいる時は使わない」など、スマホから離れるTPOを決めるのがいいと思います。ルールを決めたら、大人がお手本を示しましょう。親が長時間スマホをいじっていたら、子どももそうやってしまいます。

【SNS】 SNSでの犯罪やトラブルから子どもを守るためには？

【コミュニティサイトやSNSで事件や犯罪に巻き込まれないか心配です。】

ネットを知り合った素性がよく分からない人と会うことに、子どもはとて無警戒です。だから親が目光らせる必要があります。しかしコミュニティサイトやSNSの利用を禁止すると、子どもは心を閉ざしたり、親に隠れて利用したりする恐れがあります。思春期真っ只中の子どもたちは、親には相談しづらい学校での出来事や悩みをネット上で第三者に相談して、不安を解消していることもあるからです。

「最近どんなアプリやサイトを利用しているの？」
「どんな人とやりとりしているの？」と自然な会話の中で聞き出して、様子をつかんでいきましょ。そして「SNSでこんな事件が起きたよ」と、事件のニュースを話題にして、注意をうながす。そうすれば子どもは「自分は大丈夫かな？」と、自省できると思います。

【SNS】 SNS上で友人との人間関係がこじれるのを防ぐには？

SNSは短い文でやりとりするため、誤解や感情の行き違いが起きやすいことを教え、言葉を選ぶ大切さを教えましょ。特に気持ちが高ぶりやすい夜間に書き込むと、つい過激な言葉づかいになったり、感情的になったりして、トラブルが起きやすい。夜間の書き込みを控えたり、朝読み返してから送るようにアドバイスしてみましょ。

【SNS】 SNS上の人間関係で、気をつけるべきことは？

今の子どもたちは、気が合う相手とだけSNS上で交流する傾向がとて強い。そしてちよつとケンカになつたり、気が合わなかつたりすると、すぐにグループを脱退したり、ハンドリングを変えたりして、それまでの付き合いを断ち切る傾向があります。現実社会はそんなに甘くないと、教えてあげましょ。多様な人たちと上手に付き合い、ケンカしても仲直りして人間関係を築いていかねば、社会で働いていけません。

【正しい】 子どもを指導する時に心がけることは？

ガラケーからスマホに買い替えたら、新たにルールを決めた方がいいですか？

ガラケーとスマホはまったく別モノです。すでに携帯の使用ルールを決めていた家庭も、あらためてスマホ用のルールを決め直したり、スマホに起因する事件やトラブルを話題にしたりして、注意をうながしましょ。

【正しい】 次々と新しいアプリが出てきて流行するので、親の知識が追いつきません。

「最近どんなアプリが流行ってるの？」
「どんなことができるの？」などと子どもに聞いて教えてもらいましょ。その上で疑問や心配を感じたら、「それ危ないの？」と素直に尋ね、話し合いましょ。

子どもが使っているアプリやSNSを、子どもに教わりながら親も使ってみるのもおすすめです。そうすれば、どんな危険があるのかが分かり、的確に注意できます。

【正しい】 家庭での指導のコツを教えてください。

頭ごなしに注意するのではなく、ネットの仕組みなどを科学的に理解させるのが効果的です。たとえば子どもは「SNSのグループ内から自分の顔が写っている写真を回しても安全」と思いがちですが、グループの誰か一人が画像を外部に転送したら、あつという間に全世界に拡散し、しかもデジタル情報は保存や複製が容易なので回収は不可能です。そういうネットの仕組みが分かれば、「自分の顔写真を安易にネットに載せるのは危ない」と理解できます。情報社会の科学的な理解をうながし、「だからこういうことに気を付けよう」と理屈で教えれば、子どもも言動を改められ、今後も新しいアプリやサービスが出てきても、応用が効きやすくなります。……(取材 長井 寛)

ネットの危険から子どもを守るために

保護者のみなさまへ

ネットやスマホの使い方を親子で一緒に話し合うことで、子どもとのコミュニケーションのきっかけにしましょう。

今どんなアプリが流行っているの？

SNSでこんなことがあったって聞いたよ

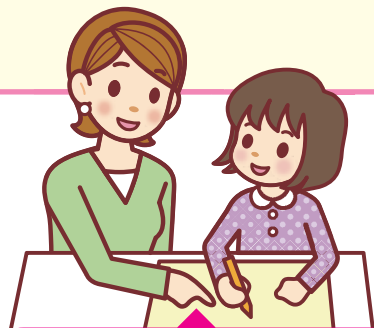
話し合うことで見えてくること

このアプリの使い方、わたしにも教えてくれない？

子どもに教わりながら、自分でもやってみましょう！

子どもの気持ちが分かる

なぜ子どもが使い過ぎてしまうのか、使ってみることで初めて分かることもたくさんあります。その上で、どうやったら使い過ぎを防げるのか考えていきましょう。



家庭でのルールの見直しも！

危険性が分かる

ネットやアプリの機能を親自身も理解することが大切です。危険な部分に分かれば、機器の機能制限をしたり、ルールで禁止したりすることができます。全てを禁止してしまっても、いつまでも子どもが使えないままです。

便利さが分かる

子どもたちは進学や就職にあたり、ネットやスマホとうまく付き合っていかなければいけません。親自身も便利に使うことができれば、子どものために色々な事を調べたり、子どもとの連絡用に使ったり、一緒に活用できるようになります。

つまり…

親自身がネットやスマホを理解することで、子どもも使い方を考えたり、ルールを守ったりするようになります。

子どもと一緒に、使い方や機能について話し合ってみましょう！

今やネットモラル教育は実施して当然。中身の充実が求められる時代に。

この本には、実践事例を多数掲載し、授業づくりのポイントや教材の活用方法を、実践者の先生方が具体的に解説しています。ぜひこの本を読んで、ネットモラル教育を始めてほしいと思います。

『だれもが実践できるネットモラル・セキュリティ』

編著 堀田龍也 東北大学大学院情報科学研究科 教授
西田光昭 千葉県柏市教育委員会 教育専門アドバイザー

本体価格 1,800円+税 / A4版 192ページ / ISBN978-4-385-36266-3

詳しくは <http://www.hirokyou.co.jp/book/>

実践事例
全32事例

ご購入はこちら
(広教通販専用サイト)



だれもが実践できる
ネットモラル・
セキュリティ

堀田龍也・西田光昭 編著

今やネットモラル教育は
実施して当然。
中身の充実が求められる時代に。

広教ニュースレター は、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線でご活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO